

## 教育福祉常任委員会次第

日時；平成30年8月31日（金）

13時30分～

場所；第1委員会室

1. 開 会

2. 議 題      地域と学校のあり方について  
                    ・「シェアにのみや」結果報告  
                    ・継続調査報告書のまとめ

3. 閉 会

## 学校再配置について出された意見（概要）

### 共通して出された分野

- 町・教育委員会からの情報発信と町民の議論への参画
  - 検討委員会提案の8原則をどうとらえるか
  - 子どもたちの意見をどう生かすのか
  - 今後の進め方
- 学校施設
  - 今問題になっている老朽化
  - 整備が急がれる設備・機器
- その他
  - 今後の意見交換会の実施方法（シェアにのみやで出された意見の扱いも含めて）

### 意見が異なる分野

- 適正な学校規模
  - 単級の是非
  - 職員の配置(教科担任)
- 地域とのかかわり方
  - コミュニティスクール
  - 地域のコミュニティと学校（防災・高齢者福祉）
- 二宮の小中学校での子育てビジョン
  - 通学距離の問題
  - 特色ある教育
- 公共施設再配置・町有地有効活用との関連
  - 長寿命化と新設の厳密な経済評価
- 小中一貫教育校(分離型)のあり方
  - 教育上の効果
  - 物理的な問題
  - 中学校からの小学校への支援（英語・プログラミング教育）

8月21日(火)

・百合が丘児童館

出席議員：二見議長、小笠原議員、添田議員、根岸議員、前田議員

参加町民：10名(小田原在住者1名)、池田県議

【現状に対するメリット】

- ・いじめなどが起こる心配はあるが、今はこぢんまりとして子ども同士が触れ合いながらやっている。相手のことを考えられるメリットがある。
- ・保護者としては広々と校庭が使える。運動会など二宮小に比べて余裕がある。
- ・小学校がなくなるのは困るが、現段階では単級でよい。
- ・単級はいやだと思っていたが、今日の話聞いて見方を変えると単級でもよいと思う。単級だからできることを探せばよい。

【現状に対するデメリット】

- ・学校を維持するだけの先生の数足りず、草刈りすらままならない状況にある。
- ・先生の数足りないというのは、下校時に下級生と上級生の時間が違うために手が足りなくなると事故が心配。
- ・先生がいない分だけ選べる部活が少ない。先生の数少ないというのがデメリット。
- ・一色小学校は中学になると二つに分かれる。それで中学生になるといじめが発生するということを知っている。
- ・一色小学校だけ卒業式の時にワンワン泣いている。中学が2つに分かれるからだ。別れるのをやめてほしい。
- ・単級でないほうが子どもたちが刺激しあってよい。公共施設再編成のためにやってはいけないが、ここで単級化に拘り問題を先送りする理由はない。
- ・教員側からいうと、小学校では、担任6人しかいないと手が足りない。空き時間もないのに全員が教材研究にとりかかればならぬ担任以外がいないとてんでこ舞いだ。
- ・加配はいるが、教員が研修に出かける。一色小の行事は減った。

【その他】

- ・統廃合やっているところで問題になるのは小学校の廃止だ。短中期的には中学1つで小学校3つにすれば緩和されるのではないか。
- ・中学校は1つで小学校区を変えるとという選択がいいのではないか。
- ・編成したほうがよいということであればよいということであれば、交流をして学校同士の顔が見える関係性を作ればもっとスムーズに進むと思う。いずれ向かう方向に何が出来るかを話し合ったほうがよい。
- ・いきなり違う学校に行けといわれると不安がある。町の方向が見えないという不透明さがある。
- ・地域コミュニティのほうから発展するのがよい。
- ・教育の中身は昔と違う。例えば理科室で地域の人が実験をやるなど、スキルを持った人が活用してもらえれば。
- ・一色小が成り立っているのは先生と保護者の努力によるところもある。
- ・避難場所としては、一色小がないと二宮高校へ行くのか。コミュニティの場としても

考えて欲しい。

- ・他の市町村から異動してきた先生からの話だが、見守りの人の数が多いのに驚いたと、町で方針を出してもらえれば、この二宮だからこそいろんな人が協力してくれるんじゃないかと思う。

8月21日(火)

・釜野児童館

出席議員：二見議長、一石議員、露木議員、渡辺議員、善波議員、二宮議員

参加町民：5名

【町の考え方、姿勢について】

- ・町の教育ビジョン、子どもがどう育ててほしいかを示すべき。何も情報がでてこないで、話が独り歩きしている。町の情報発信が弱すぎる、地域や保護者同士、両者と共有できない。
- ・平成32年度小中一貫教育は本気なのか。
- ・〇年後に小中一貫校になると、転入者に言えるくらいに見えていたほうがいい。
- ・引っ越しを考えているので学校再配置がどうなるのか知りたい。
- ・こういう意見交換は教育委員会もやるべき。道しるべを示してほしい。
- ・子どもをどう育てるかがメインテーマ。それが明確ならおのずと道はみえるはずである。
- ・ビジョンが何もないので、地域がかかわりにくい。
- ・コミュニティスクール、小中一貫教育が地域に浸透していない。
- ・他の自治体がどうかは関係ない。
- ・配慮が必要な児童生徒への視点が無い。
- ・文科省のやり方、思惑に対して町がどう考えるのか。

【通学距離】

- ・通学距離はあっていい。歩くのは重要。ただ歩けない子、骨盤がずれている子もいる。そこから考えなければいけない。
- ・長い人生、健康の基盤となるように体を作るべし。通学は多少遠くても歩く。
- ・距離感や時間の感覚は体感しないと覚えられない。遠いのは悪いことではない。
- ・こう考えているから遠くても歩くんだという町の考えを示せ。
- ・昔は茶屋から二宮小まで歩いた。
- ・通学路は楽しいことがある。でも友達がいないとつらい。
- ・歩くのは賛成。ランドセルや荷物は考えてあげるべき。
- ・学区編成までに通学路などの環境整備を、見守りも含め行うべき。

【学校のありかた】

- ・子どもを教育する上では、不親切を旨とすべし。子どもたちに適度なハードルを。
- ・子ども同士、親同士、顔が見えている良さを生かしたい。
- ・3クラスをキープできるなら中学は残す。教員の入れ替えのためにも中学校2校は必要。
- ・小規模校は教員が少ないので子どもがきつい思いをする。
- ・山西小がなくなっても西中がある。

- ・子ども同士で分かり合えている、支えあうことができているのは小規模の強み。
- ・一色小の位置はよい。
- ・一色小の地域がなくなるのはもったいない。
- ・地域のことを考えると学校選択制はよくない。失敗事例が増えている。
- ・小中一貫は課題が多い。

#### 【地域力】

- ・大阪の萱野小学校は地域力がすごい。
- ・子どもを通して地域の活性化ができる。なくなると地域が衰退する。
- ・親が暮らしやすい地域づくりが子どもにとっても良いのでは。
- ・地域に学校は必要。
- ・二宮は見守りがしっかりしている。
- ・学区編成は地域の分断（一つの地域で通う小学校が分かれるなど）はやめてほしい。

#### 【その他】

- ・人数が少ない一色小エリアに引っ越そうとは思えない。
- ・検討委員会の8原則を見ると結論はでている。
- ・国のやり方に対して、議員が子どもたちを守ってほしい。
- ・私立に行く子の割合なども知りたい。
- ・教員や専門家の意見を聞いて、議員が町を守る役割を担ってほしい。
- ・このような場を設けてくれる議会は他市町にはないのでは。とても良い。

8月23日（木）

・ラディアンミーティングルーム

出席議員：二見議長、一石議員、小笠原議員、添田議員、露木議員、根岸議員、前田議員  
渡辺議員、善波議員、二宮議員、野地議員

参加町民：5名（小田原在住者1名）

#### 【町の考え方、姿勢について】

- ・町は町民的な議論は避けたいと考えている印象である。
- ・学校再配置の決断が遅くなれば、負担は重くなる。決断は早いほうが良い。
- ・高齢者と子どもとどちらを大切にしているか疑問。
- ・「こうしたい」がはっきりしないと、学校の方向性の議論は厳しい。
- ・いくちか、再編成のパターンが絞られてくれば保護者も検討できる。
- ・問題点が絞られているとは言えないが、一色小でコミュニティスクール化と地域での支えあいが進んでいるので、もう一色小を廃止にするということではできないのではないか。
- ・教育委員会の複数年にわたるビジョンが欲しい。
- ・子どもをどう育てたいのかのビジョンが欲しい。
- ・自分がどういう教育を受けてきたのかを考えると、二宮で育ったことを誇れる学校環境が欲しい。
- ・50年ほど前は、「提灯学校」という方針であった。夜、提灯まで灯して勉強させ、学力の向上と有力高への進学を高める進学校。
- ・子どもたちには、プールの改廃のことも含めて考えてもらいたい。子どもたちに意見

をもらったらどうか。

- ・町が学校再配置を進めていることは町民に知らされていないだろう。
- ・町の方針が決まってからでは、声をあげても遅すぎる。
- ・学校ビジョン、方針を早く示してほしい。
- ・10年ぐらいでのスパンではそのまま進んでいくだろうが、教員の加配は検討する必要がある。
- ・H28に教育長は「5年以内にビジョンの議論を始める」と表明していた。
- ・5年間教育委員会内部でもんだ内容を3年間で保護者で検討するというのでは、短かすぎて、町民の合意は得られないのではないか。
- ・小中一貫教育と学区再編はどちらが優先されて検討されるべきなのか。

#### 【単級について】

質問：「人数が少ないから何とかして欲しい」という声はどこから上がっているのか？

答え：教育委員会から単級を無くしたいという方針が出されていることと、保護者から上がっている。

- ・友達が増やせないという声は聞く。
- ・強調するほど単級のデメリットは無いのでは。
- ・単級については、少ないなりのメリットもあるという声もある。
- ・単級を避けたいとすれば、学校の再編成は避けられないのか。
- ・単級については、様々な心配は想定されるが、実際に困ったという声は聞いていない。
- ・単級に対する考え方はそれぞれにある。一概にデメリットだけではない。

#### 【将来の学校配置】

質問：全小学校を二宮小に集約することは？

答え：近い将来物理的には1校に収まるようにはなるが、今は難しい。現在は多目的室などがあり、全ての教室が使えるわけではない。

- ・学区の再編にはエネルギーがかかる。ある程度の方針が示される方が論議しやすい。
- ・生徒数が減っても、スポーツチームなどは全町で編成し、進める考えもある。
- ・先生の数が減ると、部活などに差しさわりが生まれる。
- ・教員の適正な配置にはある程度の規模が有効、必要。

質問：東大跡地を学校に利用できないのか。

答え：まだ決まっていはいない。

- ・東大跡地に学校が集約されると期待していたが…
- ・東大跡地に学校を集約をすると、川匂は通学には大変な地域になる。
- ・学校は地域が作って行くものだ。一色小が良いとされているのは、地域が良いからでもある。
- ・防災面からは、学校は避難所という位置づけもあり、地域住民との合意形成は必要。
- ・保護者が安心できる環境が必要。
- ・山西小卒業生から見て、一色小の卒業生が他の学校の生徒を知っているのは良いと思った。
- ・緑が丘の高齢化問題は大変。富士見が丘・百合が丘同様に、子どもが帰ってこない状況がある。
- ・学校施設は、再配置後も維持する必要があるだろう。
- ・二宮小学校が無くなったと仮定しても、跡地を売却したら意味がない。民間デベロッ

パーが宅地を供給し、子どもたちが巣立った後は今の百合が丘、富士見が丘と一緒に  
なる。30～50年後には土地は要らないのだから、その時のことを考える必要がある。

#### 【小中一貫教育について】

- ・町は各教科担任に負担がかからないように進めていると思う。
- ・小中一貫教育を含め、モデル校は支援は得られるが、現場は大変だ。
- ・英語・プログラミング教育が入ると、中学校のサポートなしにはできない。
- ・分離型は、先生の学校間の行き来を考えると、物理的に無理ではないか。
- ・小中1つの学校を町の真ん中に作ってはどうかという意見もある。
- ・宮代町では英語教育のモデル校として、分離型での先生の行き来が可能であった。

#### 【学校環境・設備について】

- ・エアコンを設置すると、国補助の関係で何年かは使用する義務が生じるのでは。
- ・一色小は、友情の山もあり、環境も良い。昔、アスレチックがあったが、それも元のように戻してはどうか。
- ・二宮中と西中では環境が違う。(西中はゆったり、二宮中は狭く、自然が少ない)
- ・校長によって学校の雰囲気は変わってくる。

#### 【その他】

- ・二宮小の保護者は、一色小が二宮小に統合されるくらいに考えている。
- ・対岸の火事的に思っていたが、将来のこととして詳しく知りたい。
- ・プールの説明会にも人が集まっていなかった。町民にもっと発信して、話し合う場が必要。
- ・歩くことの大切さを実践することも良い。
- ・中学校へ通学に歩く距離が良いので、百合が丘を住処に選んだ。
- ・かばんが重い、通学中に気分が悪くなることもあり、歩くためにはこの負担軽減は抜本的に考える。
- ・子どもたちが将来「ここで勉強した」と言えるような学校が欲しい。
- ・二宮小の楠は切れないの？ 邪魔になっている。

8月24日(金)

・中里コミュニティセンター

出席議員：二見議長、小笠原議員、添田議員、露木議員、根岸議員

参加町民：5名

#### 【町の考え方、姿勢について】

- ・例えば小中一貫校を目的とし、併設校でやろうとなればおのずと学区編成や、学校の再配置が決まる。つまり町の目的、どうしたいのかが明確になれば、おのずと道が見えてくる。
- ・通学にバスはだいじょうぶなのか。
- ・子どもを増やすことは考えないのか。
- ・今は、子育てより高齢者なのか。
- ・妊娠から産後ケアまでできる場所がない。
- ・子どもを育てる環境は良いのに、それを活かしてきれていない。

- ・子どもに意見を聞くべき。
- ・学校がなくなっても、時代の流れで仕方ないかなと思うぐらい。何がなんでも存続とは思わない。子どものためになればいい。
- ・学区再編成、学校再配置は納得できる変更の理由があれば、町の決定に反対するつもりはない。理解する。
- ・町がもっと早く町民の意見を聞けばいい。
- ・まずは子どもたち。
- ・さっさとやればいい。
- ・町が町民から離れている。
- ・町が主催するようなワークショップや意見交換会など、いろんなところで意見を言っても達成感がない。なんだったんだろうと思う。
- ・子どもに良い環境ならば学区や学校が変わっても良い。
- ・何を目的に、どういう町にしたい。それによって違うだろう。

#### 【一色小学校や単級について】

- ・一色小学校の先生の負担はどうか。重くないのか。
- ・少人数で受ける授業は良い。単級はいやだ。
- ・単級は逃げ場がない。親は問題ない、雰囲気は良いと思っけていても、特に女子の場合、なかなか親に本心を言えない。一見問題のない単級学校での6年間は非常につらかった。
- ・百合が丘は空き家や土地を活用したらどうか。
- ・単級のつらさを子どもはどこまで親に伝えているのか。子供の意見を聞いてほしい。

#### 【現状について】

- ・PTAの負担が大きくなっている。
- ・2クラスあっても、気の合う友人と過ごしたいという意味ではあまり効果がない。ただ人間関係のためには少なくとも2クラスはほしい。
- ・大規模校で少人数学級が理想。
- ・そもそも小さな町に2校ずつ必要なのか。
- ・運動会や音楽会の合同実施をするのはどうか。
- ・実家が近くない、友達に頼めないという友人がたくさんいる。
- ・助け合いができる町。顔が見える関係がいい。
- ・地域によっては、親元に戻る傾向がある。
- ・南側の海の方がおしゃれになってきている感じに比べて、百合が丘方面(保育園のほうに上がる道など)暗い感じがある。
- ・保護者がこういう場に来ない。プールの説明会にも来ない。
  - 満足しているからではないのか。
  - 情報発信が足りないのではないのか。
- ・一色や百合が丘は地域の繋がりが強い。

#### 【学校施設について】

- ・二宮小学校の魅力って何かあるのか。一色や山西と比べるとあまり良いところがないような気がする。
- ・学校自体の老朽化、耐用年数はどうか。

- ・人口が増えたら1つの学校では入れないのでは。ふやすことは考えないの。

8月24日(金)

・梅沢老人憩いの家

出席議員：二見議長、一石議員、前田議員、渡辺議員、杉崎議員

参加町民：3名(小田原在住者1名)

- ・このシェア二宮に対する意見
- ・意見交換会で出た意見を保護者全体の意見としないほしい。
- ・夏休みで夜間では多くの保護者の出席が難しい。
- ・特色ある教育を希望・期待する保護者は他にいる。

【町の考え方、姿勢について】

- ・学校再配置については丁寧に意見の聞き取りをしてほしい。
- ・問題意識を持つところまで説明がない。
- ・通学路のチェックが必要。特に一人になるところを調査してほしい。
- ・子育て世代にとって特色ある学校教育は魅力では。  
例)「吾妻山に毎日登る」などは二宮ならではの特長になるかもしれない。
- ・小中一貫教育研究会が出した答申はパブコメを出すのか。
- ・コミュニティスクールも分裂することが心配。
- ・自分の子どもは二宮中に通わせたい。公共施設再配置ありきで、子どものためになっているのか疑問。
- ・長寿命化と新築のコスト比較は、厳密に調査をする必要がある。

【梅沢地区の現状】

- ・梅沢地区は、安全・見守り活動が充実している。
- ・学校だけでなく、消防・防災・子ども会・高齢者福祉などが地域と関連がある。
- ・地域と若い人たちもつながれる仕組みが欲しい。
- ・お祭りの単位は山西地区である。

【学区再編について】

- ・学校規模の適正化が必要。
- ・学校の適正規模をどう維持するかがポイントと考える。
- ・梅沢が山西小学区になれば、地域一学校のねじれを正す機会になるかもしれない。
- ・今後、梅沢地区は転入も増えると思われる。
- ・二宮小、山西小に分かれること仕方がないかもしれない。
- ・二宮小から山西小への統合、山西小から一色小への統合もあると以前教育長から聞いた。
- ・一色小に中学を併設できるのか。
- ・中学校の校区と小学校の校区は連動するのか。

【学校施設等について】

- ・二宮中の雨漏りがひどくてブルーシートでの対処はびっくり、海が近いから痛みが早い。

- ・耐震補強の保証は期限付き、再度、調査・工事が必要となってくる。
- ・中学校の実物投影機、テレビは大きく映るものが欲しい。
- ・ICTは指導できる教育のレベルとセットで進めてほしい。

【その他】

- ・分離型小中一貫教育校とは、その目的は何か。
- ・英語とプログラミング教育の推進は小学校だけでは無理。
- ・教員の免許外の指導を減らす。家庭科まで教科外の先生に担当させるのはかわいそう。
- ・二宮中では中間テストをやめたが2校統一のカリキュラムになっているのか。
- ・西中と二宮中で夏休み期間が違うのはなぜか。
- ・二宮小の子どもたちが帰る時間が早いなぜか。
- ・中学校の先生が小学校を手伝うことは期待できる。
- ・小学校を卒業する時点でレベルを少しそろえてほしい。

平成 30 年 10 月 1 日

二宮町議会議長  
二見 泰弘 殿

教育福祉常任委員会  
委員長 前田憲一郎

### 閉会中の継続調査報告書

調査事件「地域と学校のあり方について」、下記の通り報告する。

#### 1. 第 2 回定例会以降の継続調査について

##### 【委員会開催】

- ・ 6 月 19 日（火）学区再編・学校再配置を課題とした。  
県外視察研修について確認。
- ・ 8 月 31 日（金）「学区編成を今考える」をテーマに実施した意見交換会※「シェアにのみや」の報告と今後の調査研究について意見交換。  
※シェアにのみやだけでは意見交換会と分からないため、挿入しました。（事務局）

##### 【視察】

- ・ 7 月 12 日（木）埼玉県宮代町視察研修
  - ① 小中一貫教育推進の背景と成果について
  - ② 宮代町小中学校の適正配置および通学区の編成等に関する審議会の構成、運営、および合意形成の手法について・学区選択制について
  - ③ 英語教育について

詳細は、別途提出した研修報告書の通りであるが、①について、宮代町は、平成 24、25 年の 2 か年にわたり小中一貫教育のモデル事業の委嘱を受け、小中一貫教育の見直しを導入した。児童生徒の落ち着いた生活、意欲的な態度からは、小中一貫教育が根付いていると感じているとのことであった。②について、平成 24 年 12 月、小中学校の適正配置の審議会をが設置され、PTA から 7 名、地区から 4 名、小中から学校長が各 1 名、有識者 3 名、公募 3 名の合計 19 名で構成したされている。平成 26 年に答申があり、地域説明会を何度か実施。地元の中学校在なくなるかもという話になると、今まで聞こえなかった声が聞こえるようになったとのことである。③について、文科省の指定を受け平成 19～21 年度「小学校における英語活動等国際理解活動推進プラン」の拠点校（小学校 2 校）となり、平成 26～29 年度「外国語教育強化地域拠点事業」の拠点校（中学校 1 校、小学校 2 校）となり、平成 30～31 年度は 4 小学校が「教育課程特例校」となった。独自の研究、実践を試みられた成果としては、児童はコミュニケーションへの関心・意欲が高まり、英語を英語で理解しようとする態度が向上した。会話する力が付いたとのことであった。

### 【シェアにのみや開催】

学区再編成・学校再配置をテーマとし「シェアにのみや」を開催

- ・8月21日（火）百合丘児童館、釜野児童館
- ・8月23日（木）ラディアンミーティングルーム
- ・8月24日（金）梅沢老人憩いの家、中里コミュニティセンター

内容は、ホームページに掲載する。

### 【勉強会】

- ・6月20日（水）、7月3日（火）、7月5日（木）、7月17日（火）、7月25日（水）、8月10日（金）、8月16日（木）、8月29日（水）の8回。

## 2. 経緯

本委員会が「地域と学校について」を継続調査とした背景は、前議会が児童生徒数を調査したところ、今後の少子化に対応する学校をどうするかという課題が浮き彫りとなり、「学校について※」を引き続き研究していただきたいという申し送り事項があったためである。※正確には「小中学校の将来ビジョンについて」と「子育てについて」です。（事務局）

今後の学校のあり方としては、コミュニティスクール化、小中一貫教育の導入、学区再編、学校統合、小保連携などの校舎の有効利用など様々な取り組みが各地で行われており、それぞれを課題として研究をすることとした。

平成27年は、秦野市の小中一貫教育に対しを視察し、メリット・デメリットについて秦野市教育委員会より話を伺った。

平成28年は、懸案であった百合が丘保育園の施設老朽化と立地問題も重なりへの解決に向けて、保育園・小学校を同一敷地内で開設している東京都杉並区に視察研修を行い。実態を視察した。

また、平成29年には、コミュニティスクール・小中一貫教育について先進地である東京都三鷹市を視察し、コミュニティスクール・小中一貫教育を推進した事情、現状等について研修を行った。

6月定例会閉会后、上述の通り、視察及び委員会を2回、勉強会を8回、地域と学校のあり方について「シェアにのみや」を開催し、調査を進めてきた。

## 3. まとめ

- (1) 町民は子育て・教育のビジョンがはっきり見える町づくりを求めている。
- (2) 町民は町・教育委員会からの情報を求めている。町民と信頼関係を醸成しするために、早い段階での発信、意見の聴取、対話、参画が必要。児童・生徒を含め、多くの町民が参画できるような「場」づくりを進めるべきである。
- (3) 「シェアにのみや」への参加者は限られた。出された意見を定量的に評価することは難しいが、すべて町民の見識・関心を示す重要な意見であった。三宮町の誇りとなるような、児童生徒、保護者、地域のための学校のあり方への町民の合意形成に向け、議会の役割を果たすべく研究・対話を進める必要がある。

現委員会ではこの報告をもって継続調査を終了し、次期議会において、重要な課題として継続して取り組むことを期待するものである。

以上